

ひまわり通信

発行：乙訓ひまわり園広報委員会／発行責任者：小野哲／発行元：京都府向日市上植野町五ノ坪 11-1

2022

発行日：令和4年3月31日

Vol.22



【表紙写真】

第2乙訓ひまわり園そらグループの一枚。大好きな野球チームロゴの刺繡に取り組みました。普段はみんなを笑わせてくれるひょうきんな彼ですが、こんなに真剣な表情で作業に取り組む姿を見せてくれました。この表情、ベストショットです！

理事長ご挨拶 小野 哲

令和4年度ひまわり通信発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。令和3年度も新型コロナの感染対策に終始した一年となりましたが、このような非常事態であればこそ、社会福祉法人としてご利用者の生活支援を提供するという基本的役割を着実に果たしていかなければならないと思います。国外のコロナ感染の推移からして、令和4年度には、ウィズコロナ、アフターコロナの社会活動が稼働していくと思われます。社会情勢の変化に対応し、進んでいかなければならない一年を迎えることとなると存じますが、向陵会が掲げる基本理念「共生」のもと、歩んでまいりますので、今後とも向陵会に対してご理解、ご協力の程、お願い申し上げます。



社会福祉法人向陵会 基本理念

われわれは「共生」を基本理念とします

すべての利用者とその家族が地域の中でいきいきと生活することを願い

地域とともに「共生」を目指します

法人の新たな取り組み

京都農福イノベーションの推進

第3乙訓ひまわり園旧事務棟や周辺農地を中心に、農福連携事業を展開する「京都農福イノベーション」の取組を進めています。

この事業は、就労継続支援B型事業所「草のたね」の利用者と支援する職員が現在も花卉や農作物、果樹の栽培、加工品販売などの仕事を受け持っています。



真っ赤に色づいた「あきひめ」



上里地区のイチゴハウス

今年の春先は、皆さんイチゴの摘み取りや出荷で毎日忙しく過ごされています。

また、新たに、イチゴ栽培の農業ハウスを整備する予定です。

高齢化などで農業の担い手不足が課題となっており、法人が進めるこれら農福連携事業の推進により、少しでも地域に貢献できるよう取組に努めます。

法人の新たな取り組み

新たな暮らしの場が完成します

令和4年度上半期の前半に、向陵会として4件目のグループホーム「ジョイフル上鳥羽」を、京都市南区上鳥羽に開設する運びとなりました。すでにホームは完成しており、新しい利用者が生活を始めるのを待つている段階です。

居室の非映像式センサーによる見守りシステムや、

共有スペースのオゾン除菌システムなどの最新機器も導入し、プライバシーや安全、健康に配慮した生活空間を用意しております。

見学等のご希望につきましては、乙訓ひまわり園地域生活支援センター(TEL:075-935-7081)までお問い合わせください。



【ジョイフル上鳥羽】

住所：京都市南区上鳥羽東向町92番地

電話：075-672-7071

敷地面積：499.82 m²

延床面積：130.33坪（地上2階建）

定員：日中サービス支援型共同生活援助 17名、短期入所 3名

デイセンター 生活介護事業所

スポーツを通じてインクルーシブな社会を！

活動の中で、パラリンピックでも話題になった【ボッチャ】を取り組んでいます。用具はボッチャの普及活動に取り組んでおられる向日市社協さんから借用しました。メンバーはみんな真剣な眼差しです。しっかり狙いを定めて、一投一投大切に投げておられます。

ボッチャは、すべての垣根を越えてだれでも楽しめるスポーツとしてヨーロッパで生まれました。ひとつの競技を多様性のある人たちがともに楽しめるスポーツ、法人基本理念でもある『共生』につながる、大きな可能性のある活動だと考えています。



本格的なシートを全面に貼り、皆でボッチャを練習中！！



勾配具（滑り台）を使用して…

ワークセンター 生活介護事業所

日々の生活の中にもメリハリをつけて

さまざまな行動制限がかかる中、メンバー、職員が力を合わせ、「お楽しみパン販売」や下請け取引先の新規開拓など、センター一丸となってがんばってきました。

「一年の最後は楽しく過ごしたい」そんなメンバーの想いを受け、年末には「お楽しみ会」を開催、メンバー委員を中心にコツコツと準備をしてきました。中でも翌年の目標を掲げる看板作りに力を入れました。流行した人や物を皆で考え、看板をデコレーション、お楽しみ会当日にはメンバーの目標を貼って、完成品と記念撮影を行いました。ボーリング大会ではみんな真剣にピンを狙ってボールを投げ、そしてチームの仲間を応援しました。感染対策を行いながらも楽しいひと時となり、皆さん一年を笑顔で締めくくることができました。



恒例のボーリング大会



プロセスも楽しします

第2ひまわり園 生活介護事業所 そら・つむぎ

日中活動をアップデート

引き続き行動が制限される中ではありますが、いかに日々の生活を充実したものにしていくか、メンバーと職員で工夫をしながら様々な活動を取り組んでいます。近隣の清掃活動は今年度も継続し、地域の皆さんとのご近所付き合いも大切にしています。秋には屋外にてスポーツフェスタを楽しみました。オンラインリモートによるミュー



サングラス貸してください！



オンラインが活動でも定着してきました



小さなゴミもきっちり拾います

ジックケアも大きなスクリーンを使ってパワーアップ。等身大のインストラクターの先生がスクリーンに現れ、メンバーの注目度も上がりました。メンバーにとって日中活動はとても大切な時間、感染予防とのバランスを取りながらも、日々を楽しむことを大切にしています。

第3ひまわり園 生活介護事業所 ゆい

それぞれの20年、そして新しい明日へ

地域の支援学校から、卒業後の進路先としてゆいを選択していただくことが多く、若い利用者が多いのもゆいの特徴です。今年も晴れて成人を迎えた方々をお祝いしま

した。コロナ禍で感染対策を取りながらの祝う会となりましたが、いつものメンバーで、華やかに、そして厳かに人生の節目をお祝いすることができました。



おめでとうございます



心のこもった手作りの装飾です



スライドでそれぞれの歩みを振り返りました

トリムタブカレッジ

就労継続支援 B型事業所

歩みを止めることなく活路を見出す

龍谷大学内の弁当販売も、大学教員や事務員さんなどにも少しづつ浸透し、販路が広がっています。コロナ禍でなかなか学生が戻らず、寂しい学内ではありますが、Café樹林はお弁当作りを中心に、利用者・スタッフで活気のある日々を送っています。

アフターコロナで学内にも活気が戻れば、弁当販売だけでなく、カフェについても着実に売り上げを伸ばしていくよう、営業活動も積極的に行っていきます。



Café樹林お弁当メニューはこちら
<https://www.cafe-jurin.com>
です。ぜひ、ご覧ください



販路拡大で厨房も大忙しです



販売風景 @ 樹林店舗前



注文配達も承ります！



座学 学びの風景です

草のたね

就労継続支援 B型事業所

農業家としての誇りを持てるように

主に大原野のハウスで季節に応じた花卉栽培を行っています。そこから派生する業務の一部を紹介します。まずは、週3回京都大学桂キャンパス内の花の管理業務を行っています。定期的な鉢の交換や水やり、花の手入れなどメンバーとともに行っています。

その他にも花や農作物を「じねんと市場」(※注1)や「まちテラスMUKO」(※注2)で定期販売しています。各種イベントにも出店し、月の最終土曜日は洛西高島屋で「洛西マルシェ」、また第4土曜日は「まちテラスMUKO」のマルシェ等で販売をしています。



京都大学での植栽管理です



販売用のシールを貼っています



店内にイチゴの香りが漂います

Bakery cafe Kakehashi

就労継続支援 B型事業所

「おいしい」がいちばん「うれしい」

BAKERY CAFÉ KAKEHASHIでは毎日50種類ほどのパンを焼き、販売しております。地域の市役所、学校などでの販売や、保育園、老人福祉施設、人気のフレンチレストランなどにも納品をさせていただいている。お客様

まに「おいしい」と言っていただくことが何よりも励みになります。クッキー、ラスクの焼き菓子も販売しております。ちょっとしたプレゼントにもご利用いただいている。みなさまのご来店をお待ちしております。



集中して作業に取り組みます



ご来店お待ちしています！



お好きなパンは何ですか？

職業指導員紹介

農業のエキスパートによる農福連携の取り組み

第3ひまわり園で農作物の栽培・加工の技術指導を担当している東田勝幸と申します。和歌山県で修業した後、姫路最大級の観光農園をプロデュースし、妻の故郷である京都に移りました。主にいちご・にんにく・ブドウを栽培しています。

モットーは楽しく働くことです。メンバーさんに少しでも多く携わってもらい、継続していくよう、やりがいをもっていただけるよう工夫していきたいと考えています。メンバーと共に安心安全をお届けできるよう努めてまいります。



ひろがれ！子どもたちの可能性

開所して1年が経ちました。児童発達支援には未就学児を対象に個別の療育を行います。放課後等デイサービスには小学生から高校生までの子どもたちが送迎を利用して通っています。月曜から土曜まで、それぞれの日程で20名の子どもたちを受け入れます。平日の放課後、いっしょに過ごす時間は短いですが、違う学校のお友だちとも仲良くなって、ひまわりで会えるのを楽しみにしています。



自立課題に取り組んでいます



夏休み みんなでカレー作り



夏祭り お寺の境内ですかわり



夏祭り スーパーボールすべく



巨大なクレーンの動きにくぎ付け
@さすな京都



展望台から見える電車に大喜び
@さすな京都



恐竜の出迎えにみんなくぎ付け
@京都市青少年科学センター



草のたねのイチゴ農園でいちご狩り

地域との結びつきを大事にしたい

昨年度からひきつづきコロナ対応に追われる日々が続いていますが、その中でも少しずつでも安心して日常を過ごしていただけるようにと取り組んでいます。例年行っていました「地域交流会」でのお餅つきも、昨年同様、地域の清掃活動に変更しました。

また、直接地域の皆様とふれあうことは難しくても、少しでも日頃の感謝や共にコロナを乗り越えていきたいという思いを届けるため、職員一同やグループホームの利用者の方たちに協力してもらい、メッセージボードを作成しました。ひまわり園の正門横に掲示してありますので、近くを通りかかった際にはぜひ一度ご覧いただければと思います。



清掃活動後の集合写真



感謝の気持ちを届けたい

健康支援室

専門スタッフが健康面のサポートを行います

メンバーさんに安心して通所していただけるよう、医療職が専門的な支援を行います。コロナ禍での急な体調の変化やケガなど、いろいろ不安になることが多いですが、症状を観察し、支援者・ご家族と連携を取りながら対応していきます。来園時の検温や手指衛生、うがい、消毒などの感染対策も引き続き行います。また、定期健康診断や歯科健診、職員への講習会の実施などもしています。



健康面について相談したいことなどあれば、気軽にお声掛けください。

公益財団法人 JKAの公益事業振興補助事業(新型コロナ緊急支援整備事業)にて、以下の設備整備を実施しました。

- 加湿空気清浄機3台設置(デイセンター、ワークセンター、第2乙訓ひまわり園)
- 顔認証温度検知システム設置(乙訓ひまわり園玄関出入口)
- 吸引機、ネブライザ、パルスオキシメーター、パルスオキシメーターエニイバル2台(健康支援室)



地域の中の生活を支えるために

研修による「支援の質の向上」と地域住民との「地域多世代交流」を進めてきました。

研修は①初心に戻って利用者を考える②介護技術の向上を目的としました。



自立支援と利用者、職員の安全性の視点からの勉強会です



あらためて利用者像を多角的に捉えなおしています



タバコ体操 大切な地域とのつながりの場です



地域の子どもたちとのれんを作り きりしま荘の
びわで染めています

きりしま 訪問看護ステーション

暮らしに安心を届けます

新型コロナウィルス感染症が拡大する中、利用者さんの暮らしを支え続けるために、看護師自身も「感染しないこと」を大切にした感染症対策に取り組んでいます。訪問前のスタッフの検温、訪問時の手洗い、アルコールでの手指消毒、マスクの着用を徹底し、最大限の感染防止を取りながら訪問を行います。

利用者の自宅や地域での生活を維持できるよう、日常的な健康状態の把握と、支えるご家族のサポートもしていきたいと考えます。



感染予防策を徹底して訪問します

地域連携室 発達障害者圏域支援センター事業

支援する人たちを支えるために

9月に『発達に気がかりがある子どもに寄り添うため、支援者が理解しておきたいこと』をテーマにオンラインにて研修会を開催しました。講師に京都芸術大学 芸術教養センター 岸本栄嗣 准教授をお招きし、乙訓圏域の保育所、幼稚園、放課後等デイサービスなどに所属する支援者約20名の受講がありました。研修後のアンケートでは、「日々悩んでいた児童とのかかわり方についてのヒントを得ることができた」「新たな気づきがあった」などの意見を多数頂戴し、このような研修機会の必要性を改めて感じています。

乙訓圏域の発達に課題がある、児童・成の方への相談窓口として、また、悩みを抱える支援者さんたちのフォローの場として、今後もこういった機会の提供を継続し、日々の支援のヒント、一助となるような研修開催を行っていきます。



オンライン対応が困難な参加者向けに、一部会場も開放し、受講していただきました。

【日時】	令和3年9月25日(土) 午前10時00分 ～11時30分
【会場】	乙訓圏域多目的ホール 乙訓文化会館(京都市伏見区北堀町1丁目1番地)
【対象】	乙訓圏域の福祉・保育・教育等の関係者 40名
【登録料】	無料
【参加申し込み】	QRコードを読み込んでください
 令和3年9月25日(土) 乙訓圏域発達障害者支援センター研修会	
<p>「発達に気がかりがある子どもに寄り添うため、支援者が理解しておきたいこと」</p> <p>◆講 師 京都芸術大学芸術教養センター 基教授 岸本 栄嗣 ＜専門分野＞臨床発達心理学 ＜専技＞公認心理師、大学卒業後、社会福祉法人に勤務し、青少年・障害児教育キャリア実績およびボランティア育成事業に従事。その後、大学院で発達相談員としてのトレーニングを受け、以降15年以上の豊富な経験の乳幼児健診、療育時間、保育所での発達相談、巡回相談に従事。大学では「特別支援教育概論」、「発達児育育」などを担当するほか、支援を必要とする学生のサポートに取り組む。</p> <p>主催 心斎橋筋河原町発達障害者支援センター 乙訓文化会館(京都市伏見区北堀町1丁目1番地) 内田浩二 担当者 075-935-0101 問い合わせ先 075-935-0101</p> <p>共催 京都府発達障害者支援センター(ひまわり)</p>	

就労継続支援B型事業

地域とのつながりから販売機会を創出

令和3年3月から授産製品を納品させていただいている、向日市戸町のオムロンヘルスケア株式会社さまへ社内販売に行きました。今年は11月・12月に計3回、社員さん向けに「花の寄せ植え・パン・クッキー」の販売の機会をいただき、大変ご好評をいただいています。コロナ禍によりオンラインで勤務されている方も多く、日程が合わず購入できなかったのが残念だったとのご意見や、次年度もお願いしたいという嬉しいお声もいただきました。今後も継続して販売の機会をいただけるよう、魅力ある商品作りに取り組んでいきたいと考えています。



お買い上げ下さった社員の皆様といっしょに記念撮影させていただきました

【寄付金募集のお願い】

法人では、個人による寄付がしやすい環境を築くため、公益法人に対する税額控除制度認証の取組を進めています。令和3年度に引き続き、利用者の送迎車両の更新と増車を進めるため、寄付金を募集しておりますので、ご協力のほどお願いします。1口 3,000円です。



社会福祉法人

向陵会

乙訓ひまわり園

〒617-0006 京都府向日市上植野町五ノ坪 11-1
デイセンター TEL.075-935-7071 FAX.075-935-7072
ワークセンター TEL.075-935-0055 FAX.075-935-7072
地域生活支援センター TEL.075-935-7081 FAX.075-935-7082
地域連携室 TEL.075-935-0101 FAX.075-935-7072

第2乙訓ひまわり園

〒617-0006 京都府向日市上植野町五ノ坪 13-1
TEL.075-935-0112 FAX.075-935-0113

第3乙訓ひまわり園

〒610-1131 京都府京都市西京区大原野上羽町 388
生活介護事業所 ゆい・就労継続B型支援事業所 草のたね
TEL.075-335-0222 FAX.075-335-0233

ホームページ

<https://himawarien.net>



きりしま荘

〒617-0823 京都府長岡京市長岡 2 丁目 3-32
きりしま荘 TEL.075-366-0309 FAX.075-959-0734
訪問看護ステーション TEL.075-959-1122 FAX.075-959-0734

児童通所支援事業所ひまわり

〒617-0006 京都府向日市上植野町北小路 61
児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所
TEL.075-754-6895 FAX.075-754-6922

ひまわり会

乙訓ひまわり園、第2乙訓ひまわり園、第3乙訓ひまわり園の通所者の家族の会です。主な活動として、2か月に1回、定例会を開催、園内及び乙訓全体の障がい者福祉の情報交換の場となっております。今後とも、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

乙訓ひまわり園後援会

【会費（年会費）】

☆令和4年度（期間：1月1日～12月31日）

（何口でも結構です）

個人会員 1口 1,000円 団体会員 1口 5,000円

【納入方法】

1. 郵便振込用紙があるのでご利用ください。
2. お知り合いの役員・保護者及び職員にお渡しください。
3. 後援会事務局（乙訓ひまわり園内）までご持参ください。

【お問い合わせ・連絡先】

乙訓ひまわり園後援会事務局

〒617-0006

京都府向日市上植野町五ノ坪 11-1

社会福祉法人 向陵会

「乙訓ひまわり園」内 後援会担当

TEL.075-935-7071 / FAX.075-935-7072